

# 事業概要説明

自然環境課・白山自然保護センター

1



年間4~5万人の登山者が訪れる



白山山頂から見た御来光

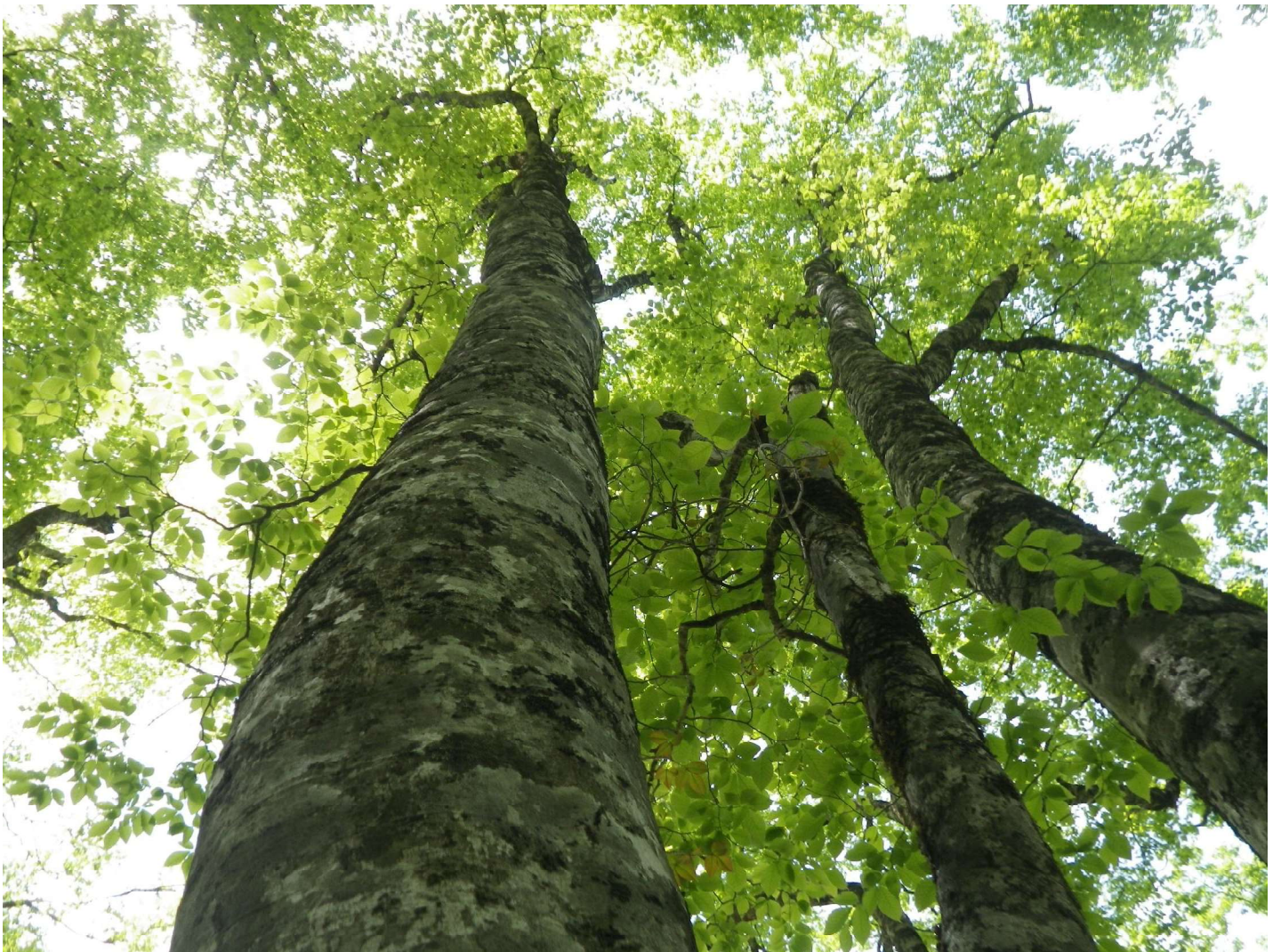


白山は花の名山としても知られ、  
約250種の高山植物が生育する



白山の名がついた「ハクサンコザクラ」







イヌワシ



ナメコ



イワナ



ニホンシザル



ニホンカモシカ



ツキノワグマ

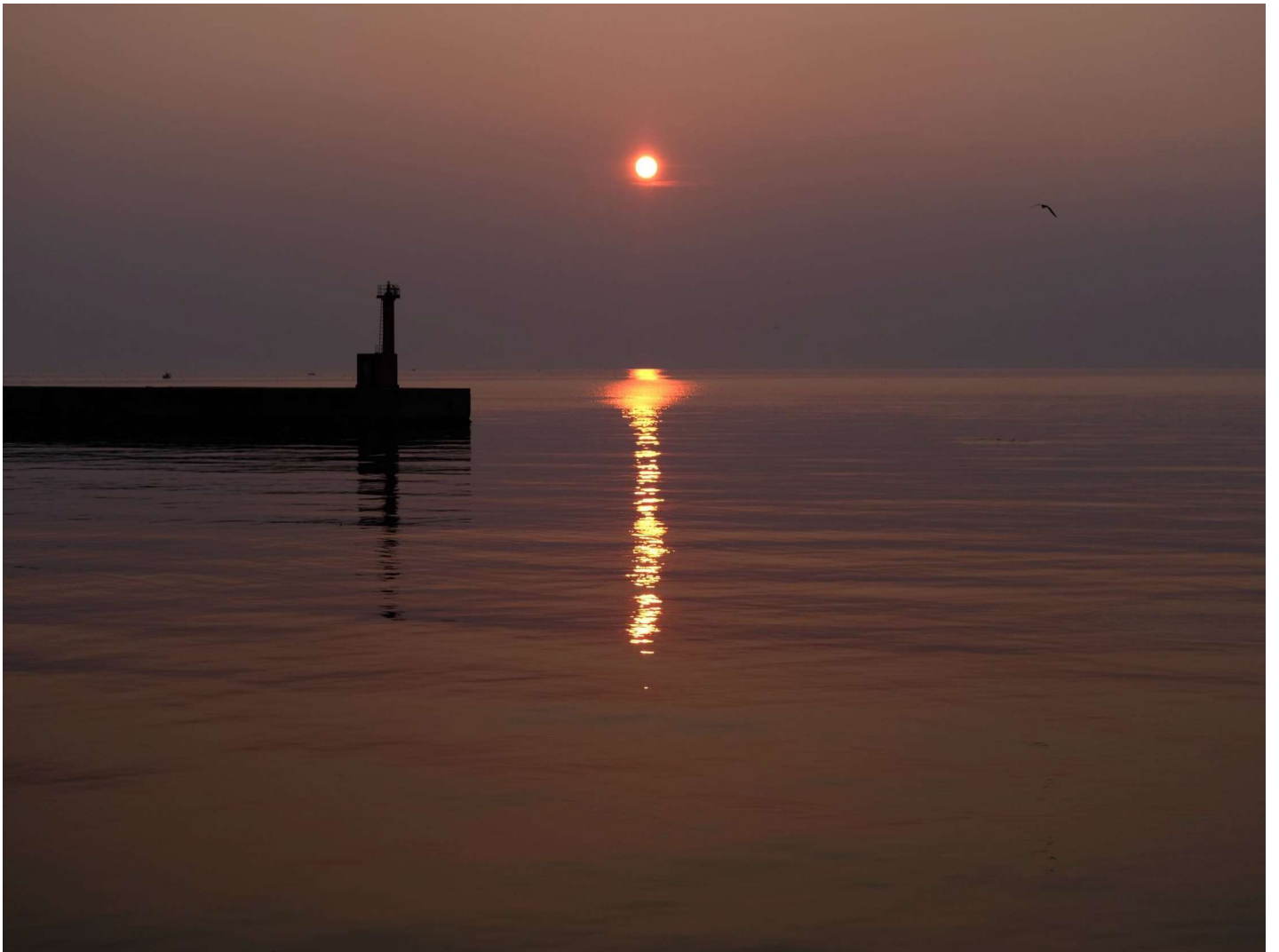






W.G. JWAO Photo Lab.









28

## 自然環境課の主な業務

29

# 1 自然環境の保全

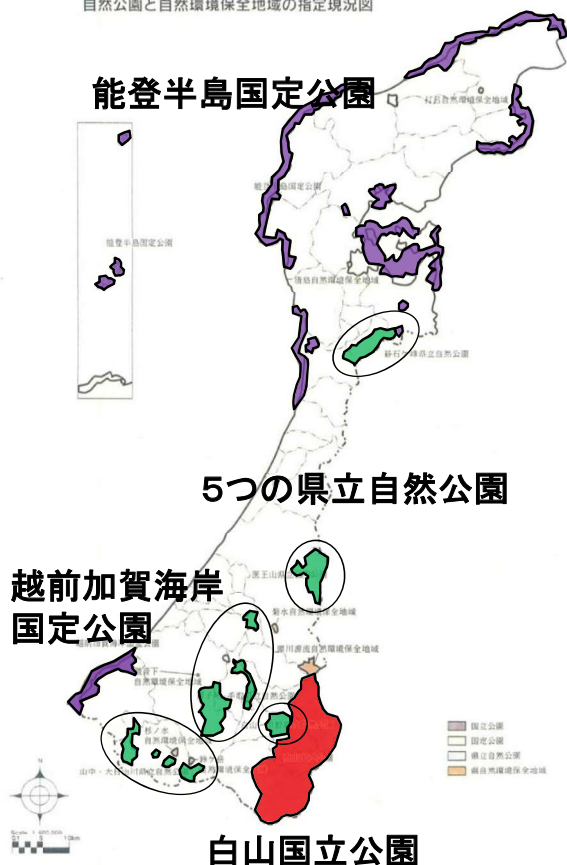
「**自然公園**」と「**自然環境保全地域**」を指定  
優れた自然環境や自然景観をもつ地域や、  
貴重な動植物や地形地質が分布する地域  
などを保護する

国では、「自然公園法」や「自然環境保全法」、  
県では、「ふるさと石川の環境を守り育てる条例」に基づき、  
指定地域では**木竹の伐採や工作物の設置等の行為を規制**  
→ 許可を得なければ行為ができない

30

## 石川県の自然公園と自然環境保全地域

自然公園と自然環境保全地域の指定現況図



### ○自然公園

8公園(県土の約12.6%)

国立公園 1

国定公園 2

県立自然公園 5

▶保護と適正な利用の推進

保護 自然景観の保護  
生物多様性の保全

利用 自然に親しむ施設整備  
自然体験活動等の充実

### ○自然環境保全地域

7か所(県土の約0.3%)

▶保護・継承

31

## 2 希少な野生動植物種の保護

①種の保護と普及啓発のため、

いしかわレッドデータブックを作成

絶滅のおそれのある野生生物の種をリストアップし解説を加えた資料集

②保護の必要性が高い種は、

県指定希少野生動植物種として指定

→ 捕獲、採取、殺傷、損傷の禁止

③特に、緊急に保護対策が必要な

県指定希少野生動植物種は、保護増殖事業

④トキの種の保存

⑤ライチョウの種の保存

32

### ①いしかわレッドデータブック

#### ○「いしかわレッドデータブック」

初版	2000年（H12）	植物編/動物編
2版	2009年（H21）	動物編
	2010年（H22）	植物編
3版	2020年（R2）	植物編/動物編

石川県の絶滅のおそれのある野生生物  
いしかわ  
レッドデータブック2020  
動物編



石川県

#### ○3版の主な改訂内容

- ・掲載種は1,194種（植物720種、動物474種）  
→第2版から195種（植物73種、動物122種）増加
- ・絶滅危惧種（絶滅危惧Ⅰ類及びⅡ類）は、669種（動物208種、植物461種）  
→第2版から98種（動物61種、植物37種）増加
- ・絶滅種は、15種（動物5種、植物10種）  
→前版（第2版）から1種減少  
→トキ・ライチョウなど4種が県内で再確認されて絶滅危惧Ⅰ類に変更になった一方で、ヒメクロウミツバメなど3種が新たに絶滅種に変更

石川県の絶滅のおそれのある野生生物  
いしかわ  
レッドデータブック2020  
植物編



石川県

33

## ②石川県希少野生動植物種の指定

「ふるさと石川の環境を守り育てる条例」の希少野生動植物の保護に関する条項により**希少野生動植物種**を指定


→指定種の生きている個体は、捕獲、採取、殺傷又は損傷を禁止

※違反した場合は、1年以下の拘禁刑又は50万円以下の罰金

→**石川県希少種保全推進員**によるモニタリングを実施

石川県指定希少野生動植物種 21種

※は、「種の保存法」に係る国内希少野生動植物種でもある種

鳥類	2種	チュウヒ※、コアジサシ	
淡水魚類	2種	トミヨ、ホトケドジョウ	
昆虫類	3種	イカリモンハンミョウ シャープゲンゴロウモドキ※ マルコガタノゲンゴロウ※	
両生類	1種	ホクリクサンショウウオ	
クモ類	1種	イソコモリグモ	
植物	12種	ウミミドリ、オキナグサ、エチゼンダイモンジソウ、 サドクルマユリ、トキソウ、サギソウ、イソスミレ、 センダイハギ、ヒメヒゴタイ、トウカイコモウセンゴケ、 イシモチソウ、カザグルマ	

チュウヒ(タカ科)

34

## ③生息域保護増殖事業

県指定種で緊急に保護を要する種について、保護増殖事業に着手(2010年～)



オキナグサ  
開花個体は60個体程度



イカリモンハンミョウ  
個体数減少・生息域半減



サドクルマユリ  
開花個体は40個体程度

イカリモンハンミョウ (実施主体:プロジェクト・アイ)

→生息状況等調査、遺伝子調査、生息域外での飼育繁殖、現地保全活動

サドクルマユリ

(実施主体:県立大学、岐阜大学、白山自然保護センター)

→現地にて開花結実状況調査、無菌播種栽培等

オキナグサ

(実施主体:県立大学、白山自然保護センター)

→現地にて開花状況調査。種子冷凍保存、遺伝子調査、盗難防止パトロール

35

## ④トキの種の保存

### 石川県(能登)は本州最後のトキの野生生息地

佐渡での飼育・繁殖に際して鳥インフルエンザ等感染症による再絶滅を防止するという国の方針



本州最後のトキ「能里」

→全国に先駆け平成22年1月からトキ分散飼育に協力  
令和6年度までに、92羽の繁殖に成功し91羽を佐渡へ返還

→平成28年11月

本州初の公開展示施設  
「トキ里山館」がオープン



餌場となる湿地や  
棚田状の地形を再現



飛翔したり止まり木で休む  
トキを間近で観察

→令和7年2月

環境省が能登地域での  
トキ放鳥を決定

→令和7年7月

トキ放鳥場所を羽咋市南潟地区に決定

→現在、令和8年6月の放鳥の実現に向け、社会環境、生息環境の整備を推進している。

36

## ⑤ライチョウの種の保存

### ◆白山でのライチョウの確認

平成21年 およそ70年ぶりに白山でライチョウを確認  
最近20数年間で、全国で約3,000羽から約1,700羽に減少

白山で発見されたライチョウ、メス ⇒  
(H21年10月撮影)



●H22 ライチョウの種の保存に貢献するため、  
スパールバルライチョウの飼育を開始



●H23 飼育施設「ライチョウの峰」オープン  
スパールバルライチョウの展示を開始(～R7.7)



●H29 ライチョウ飼育施設に選定

H27・28 環境省がライチョウの飼育下繁殖の技術確立を目的に  
乗鞍岳からライチョウの卵を採取し、ふ化・飼育  
繁殖開始

H29 いしかわ動物園が飼育施設に選定

H30 受精卵3卵を受け入れ ⇒ 3卵ともふ化、成育  
ライチョウの公開展示開始

R1～ 他園から受け入れたオス・メスの成鳥による繁殖を行っている



37

# 3 外来種対策

外来種とは、

- ・人の活動によって他地域から入ってきた生物
- ・地域固有種を捕食したり、生物相を単純化するなど、生物多様性にとって好ましくない

国では、

生態系などに被害を及ぼす動植物を、外来生物法により「**特定外来生物**」として指定し、飼育や栽培、運搬、譲渡、野外への放出等を規制

県では、

「**外来種を入れない、捨てない、拡げない**」をスローガンに、普及啓発等を推進

38

## 石川県内で確認されている特定外来生物



**アライグマ**

南加賀地域を中心に生息  
白色の顔に黒色系のマスクを着けたような外見で4~7の輪模様を尾に持つ



**ウシガエル**

能登から加賀まで広く分布。高い捕食性と旺盛な繁殖力を持ち、他のカエルをはじめ多くの在来種に悪影響を与える



**オオクチバス**

県内全域で分布。シャープゲンゴロウモドキなどの希少種を含む在来生物群集に大きな影響を及ぼしている



**コクチバス**

犀川上流の内川ダム等に生息  
在来のイワナやヤマメなどの溪流魚に大きな影響を与える危険性



**ブルーギル**

柴山瀧で初めて発見されて以来、木場瀧、河北瀧、邑知瀧のほか公園内の池などにまで広く分布



**カダヤシ**

水田や用水路、流れの緩い河川流などに生息。加賀市で生息が確認。メダカと競合し駆逐するなど、生態系被害のおそれ

39

# 石川県内で確認されている特定外来生物



**オオキンケイギク**

能登から加賀まで広く分布。河川敷固有の植物等との競合や駆逐など、在来種に対して悪影響をあたえるおそれがある



**アレチウリ**

能登から加賀まで広く分布。他の植物に覆い被さり、成長を阻害するなど、植物の多様性に悪影響を与えるおそれがある



**オオハンゴンソウ**

白山白川郷ホワイトロード等で生育を確認。在来種との競合や駆逐など、在来種に対して悪影響を与えるおそれがある



**セアカゴケグモ**

メスは毒を持っており、生態系被害のみではなく、健康被害のおそれがある。



**オオカワヂシャ**

水路、河川、湿地の水際に生育。能登や河北潟などでの生育が確認された。在来種との競合や交雑のおそれがある

ほかに、ソウシチョウ、カミツキガメ、アカミガメ、アメリカザリガニ、オオフサモが確認されている。

40

## オオキンケイギク対策

鮮やかな黄色の花のため特定外来種と知らず、栽培されているケースもある  
開花時期は5月～9月で、花期が終わると多くの種をつける。  
多年草のため、1度の除去では完全な排除が難しく、正しい知識を持って防除をしなければ、種の拡散などによりその生育範囲を拡げてしまう恐れがある。



**より一層の普及啓発と、県、市町、住民が一体となった防除対策が重要**



41

# アライグマ対策

ペットの放逐等により野生化

- ・南加賀地域を中心に生息域が拡大
- ・家屋侵入等の生活環境被害が生じる
- ・繁殖力が非常に高い  
(年1回、平均3~4頭出産)
- ・早期に防除を進めなければ、爆発的に増えるおそれがあり、  
広域での捕獲を促進



行政だけでなく、地域住民も防除従事者として養成し、防除を推進

県での対策

- ・地域ぐるみの捕獲体制を充実させるため、防除マニュアルを作成
- ・能美市、小松市においてアライグマ防除講習会を開催



# 4 野生鳥獣の保護管理の推進

クマ、イノシシ、ニホンジカ等の野生鳥獣が地域的に増加し、農林業被害や生活環境被害などが発生

→ **クマ、イノシシ、ニホンジカ、ニホンザルの管理計画**

- ・管理目標に基づく適切な個体数管理
- ・鳥獣の生息環境の整備
- ・野生鳥獣による被害の防除 など

## ①ツキノワグマ対策

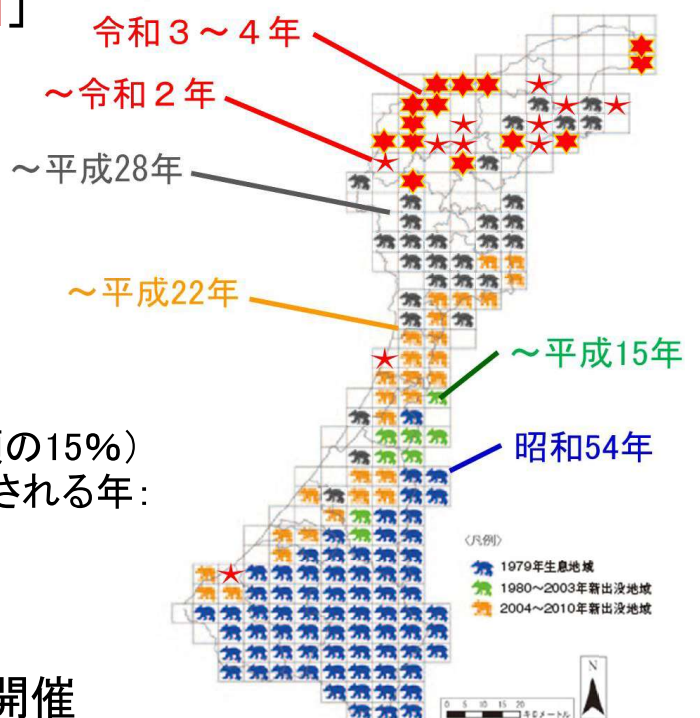
「第3期石川県ツキノワグマ管理計画」  
により、クマの適正な管理を実施

- ◆計画期間 R4.4.1～R9.3.31
- ◆管理区域 県内全域(19市町)
- ◆管理の目標
  - ①生息数の縮小(約800頭)
  - ②人身被害等の防止
- ◆年間捕獲総数の上限
  - ①通常年:180頭(推定生息頭数1,200頭の15%)
  - ②ブナの凶作等により大量出没が予想される年:250頭

### 【主な取り組み】

- ・モニタリング等の調査研究
- ・住民や狩猟者向けのセミナー等開催
- ・クマエサ資源調査

ブナ科植物の豊凶を調査し、秋の大量出没を予測



クマの新規出没地域

## ②イノシシ対策

イノシシは、加賀地域を中心に捕獲数が増加し、平成22年には珠洲市内で痕跡が確認されるなど、県内全域に分布が拡大。個体数については、これまで、最大限の捕獲に努めた結果、平成30年度（約34,000頭）をピークに減少に転じた。

→ 令和4年度末の推定生息数：約14,000頭

鳥獣による農作物被害の大部分がイノシシによる被害

→ 令和6年度の農作物被害額：約45百万円



### 「第3期石川県イノシシ管理計画」

◆計画期間 R4.4.1～R9.3.31

◆管理の目標

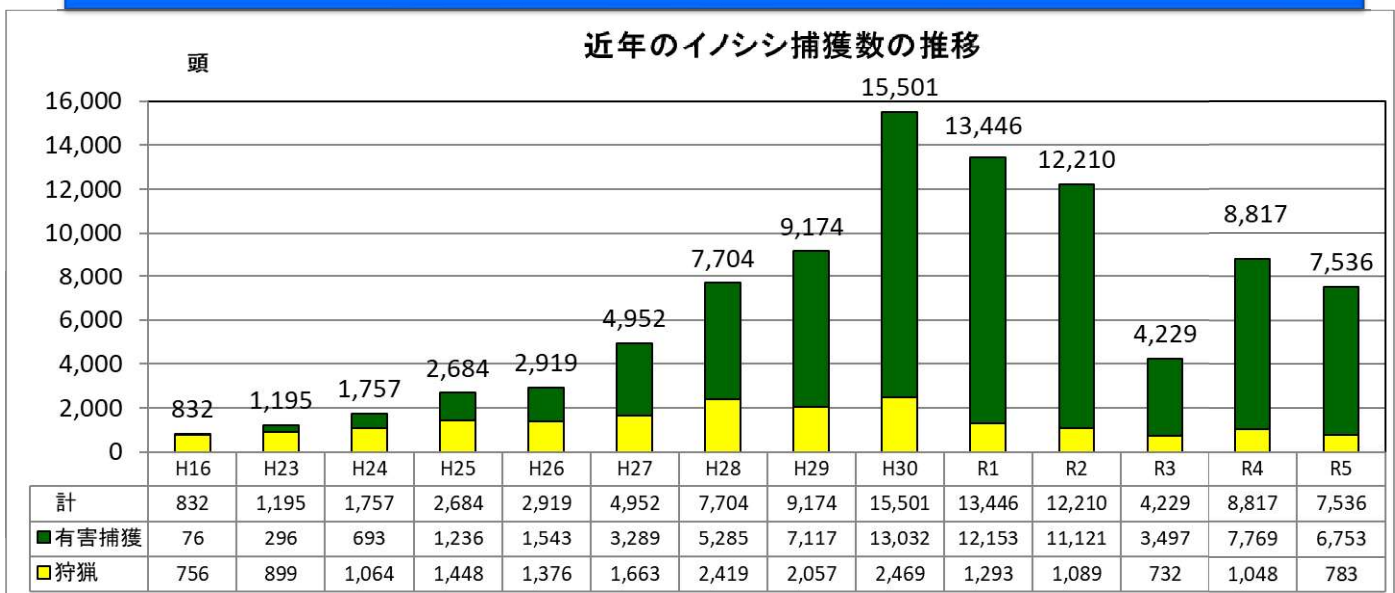
- ・個体数：**毎年度、約12,000頭の捕獲を進め、R8年度に13,000頭以下に**
- ・農作物被害：**R8年度末に約34百万円に**

【主な取り組み】

- ・狩猟期間の延長 通常11/15～2/16 ⇒ 11/1～3/31
- ・鳥獣保護区を一時的に解除し、イノシシの狩猟を可能とする区域を拡大

46

## イノシシの捕獲数



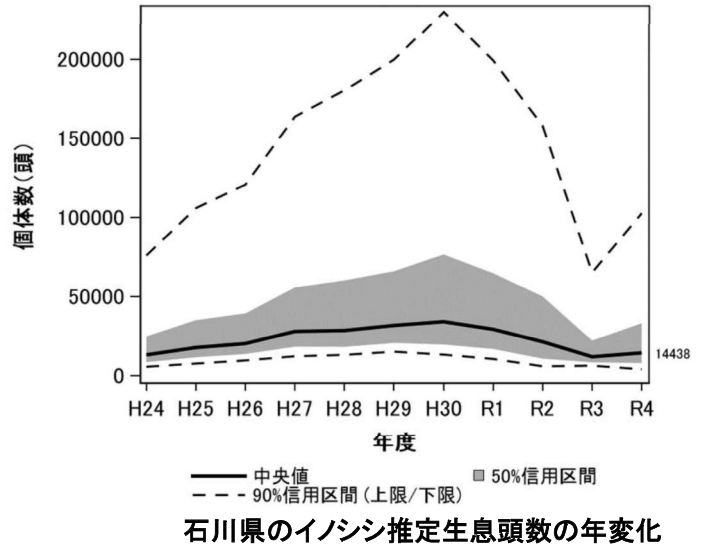
### ① 箱わな例



# イノシシの生息数の推定

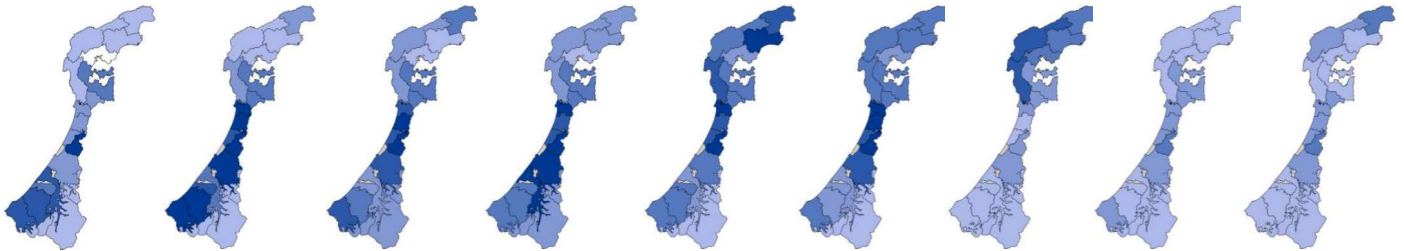
- 加賀地域から分布が拡大し、県内全域に分布が拡大
- 県内では、令和4年度末で約14,000頭が生息していると推定

R4年度末  
約8,000頭～33,000頭  
中央値 約14,000頭

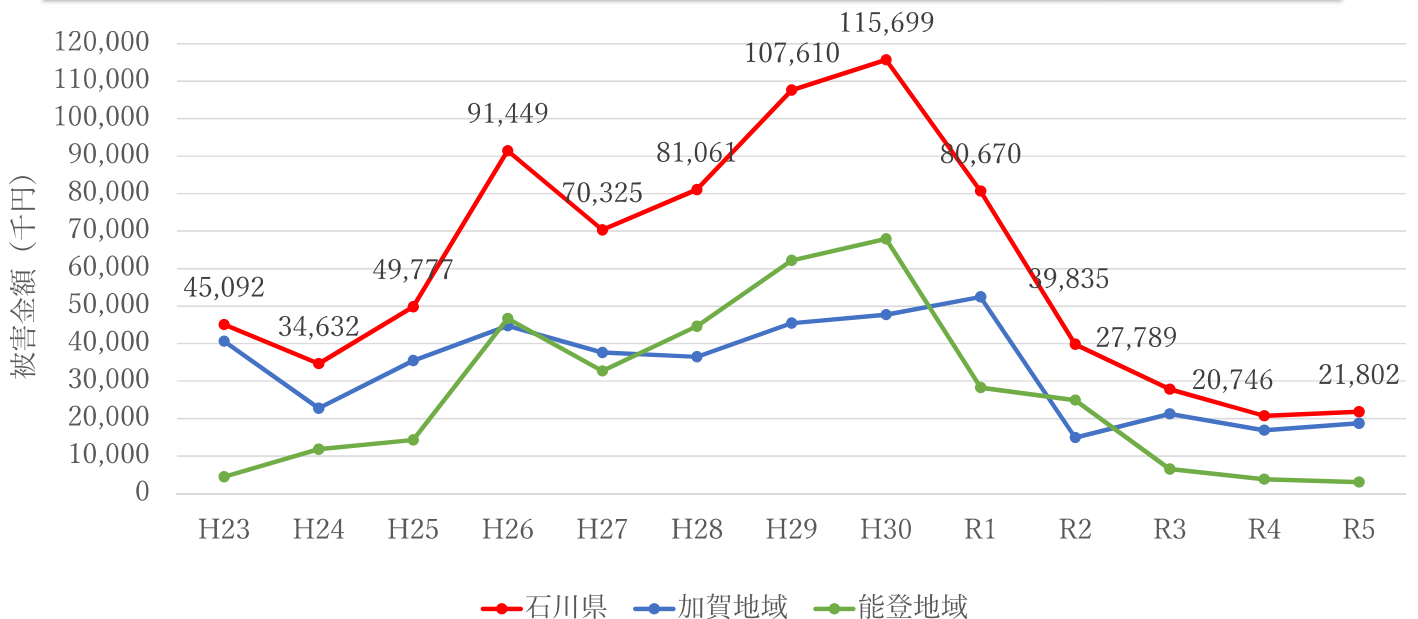


推定密度分布の年変化

H26年度 H27年度 H28年度 H29年度 H30年度 R元年度 R2年度 R3年度 R4年度

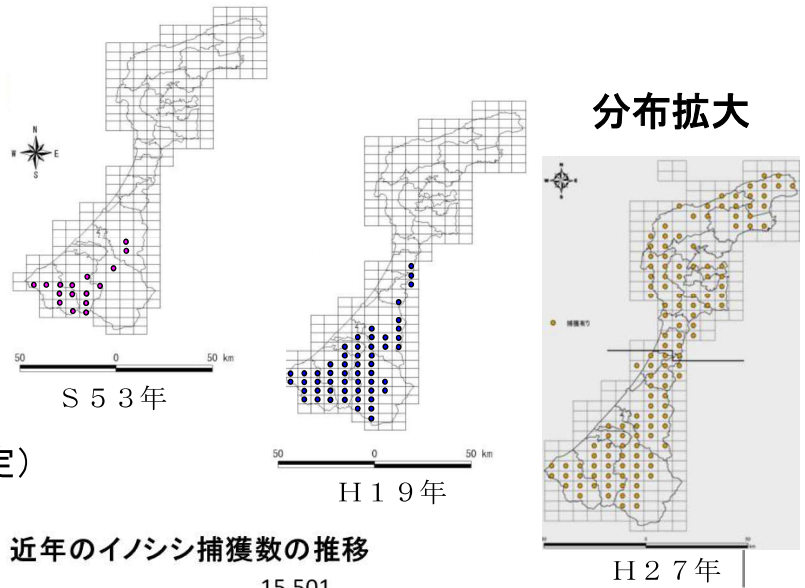


# イノシシによる農作物被害



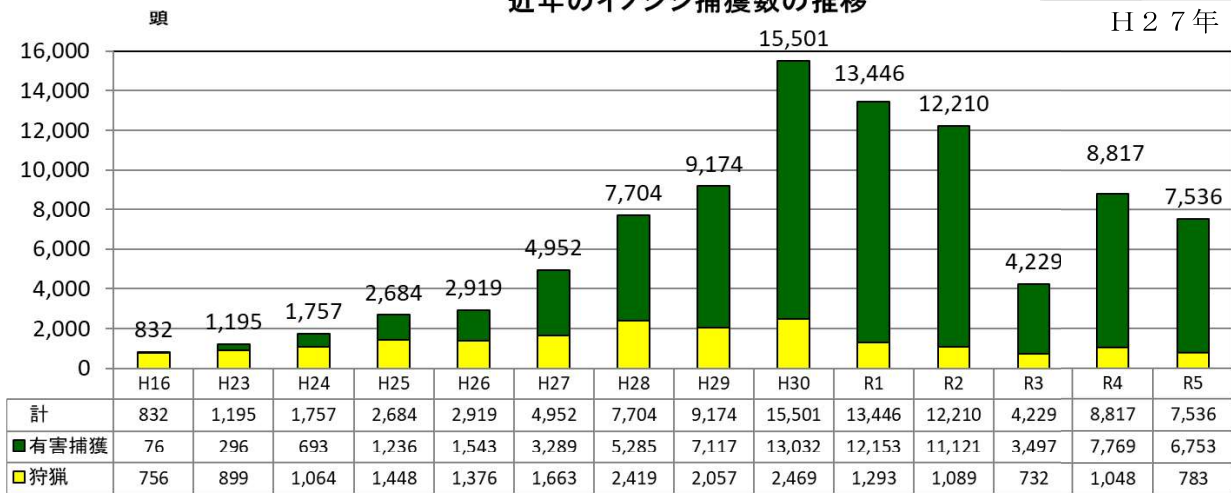
# イノシシ

昭和50年代 生息わずか  
 平成6年頃～ 分布拡大  
 平成10年 イネ被害発生  
 平成20年代 全県被害発生



推定数 約4,100～103,000頭 (R5推定)

近年のイノシシ捕獲数の推移



## ③ニホンジカ対策

本県の生息数や被害は隣県の福井県や岐阜県に比べて少ないが、本県と接する福井県嶺北地方では被害が顕在化していることから、今後、本県への侵入、定着による急激な拡大が危惧されている。

→<県内のニホンジカの推定生息数>

H24：約900頭 → R5：約5,300頭

※福井県：約59,000頭(H27)、岐阜県：約67,000頭(H26)

### 「第3期石川県ニホンジカ管理計画」

◆計画期間 R4.4.1～R9.3.31

◆管理の目標

捕獲を進め、**個体数の増加及び生息域の拡大を抑制し、生息密度を低減させ、農林業、生活環境及び森林生態系への被害を未然防止**

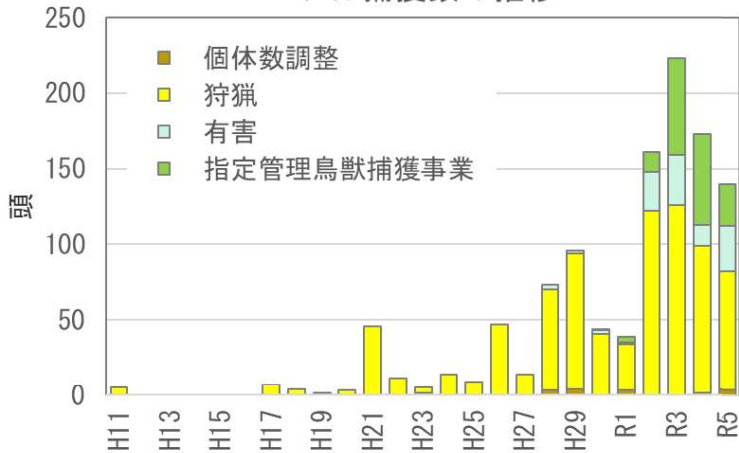
【主な取り組み】

- ・狩猟期間の延長 通常11/15～2/16 ⇒11/1～3/31
- ・鳥獣保護区を一時的に解除し、ニホンジカの狩猟を可能とする区域を拡大

# ニホンジカ

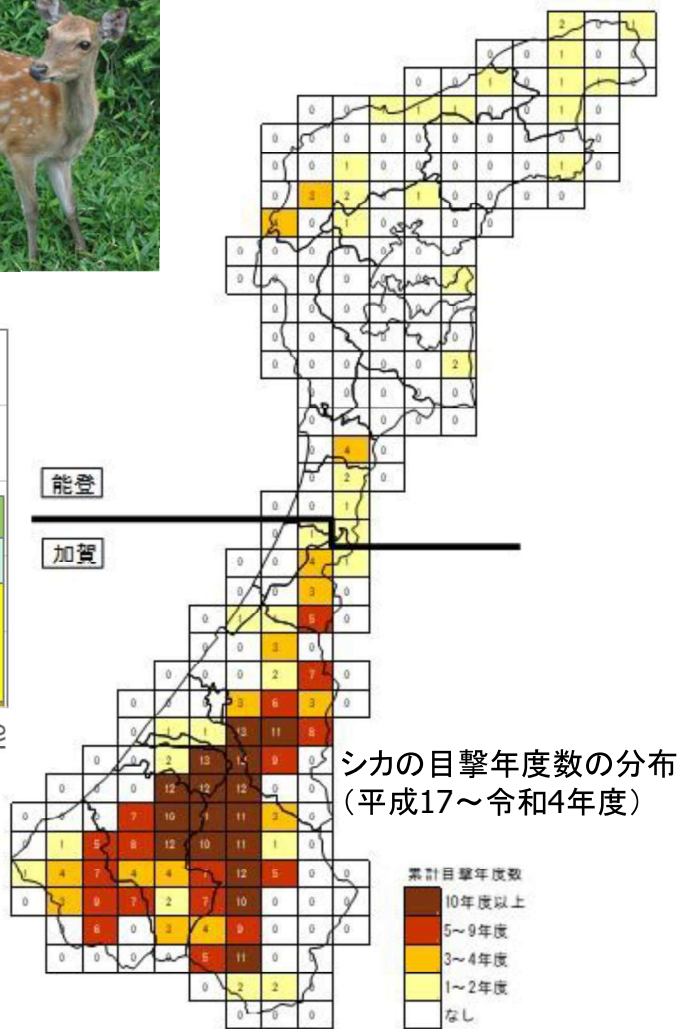


シカ捕獲数の推移



## 生息推定数

H25年 600~1,100頭  
 H30年 1,200~2,600頭  
 R5年 3,100~7,400頭

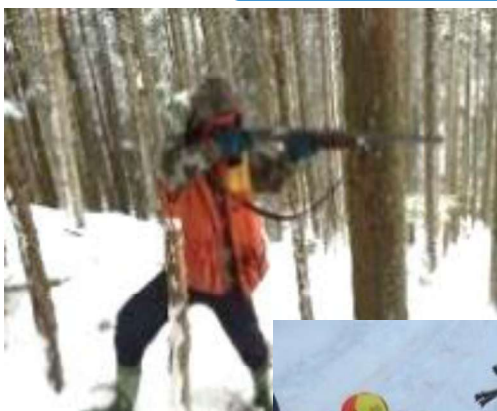


シカを目撃年度数の分布 (平成17~令和4年度)

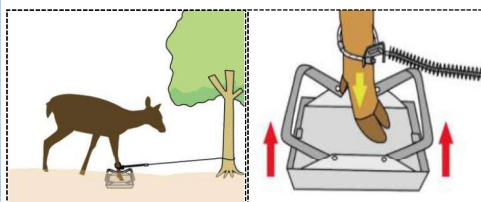
## 指定管理鳥獣捕獲等事業 県による捕獲

個体数が隣県に比べれば少ない侵入初期  
 → 県で捕獲を行ない、個体数の増加及び生息域の拡大を抑制

### 銃 猟



### くくりわな



## ④ニホンザル対策

白山麓地域において、1980年代から1990年代にかけて  
個体数が大幅に増加し、農作物被害が拡大

→<県内のニホンザル個体数（群数）、農作物被害額>

H28：約1,490頭（32群）、386千円 → R3：約1,500頭（34群）、1,361千円

### 「第3期石川県ニホンザル管理計画」

◆計画期間 R4.4.1～R9.3.31

◆区 域 小松市、白山市、金沢市

◆管理の目標

被害金額の低減と人身被害・生活被害の防止を実現するため、  
生息分布の最前線を後退させる

#### 【主な取り組み】

- ・関係市町間の連携を強化し、県、市町、専門家を構成員とした  
対策会議を開催し、群れの特性に応じた対策を検討
- ・群れ毎に加害レベルに応じた管理を行う。
  - ・保全群（本来の生息地である山間部に生息する群れ）→捕獲しない
  - ・調整群（里山内の集落に出没し加害する群れ）→部分捕獲又は群れ捕獲
  - ・排除群（人間活動が活発な地域に出没する群れ）→群れ捕獲

54

## ニホンザルの管理

### 保全群

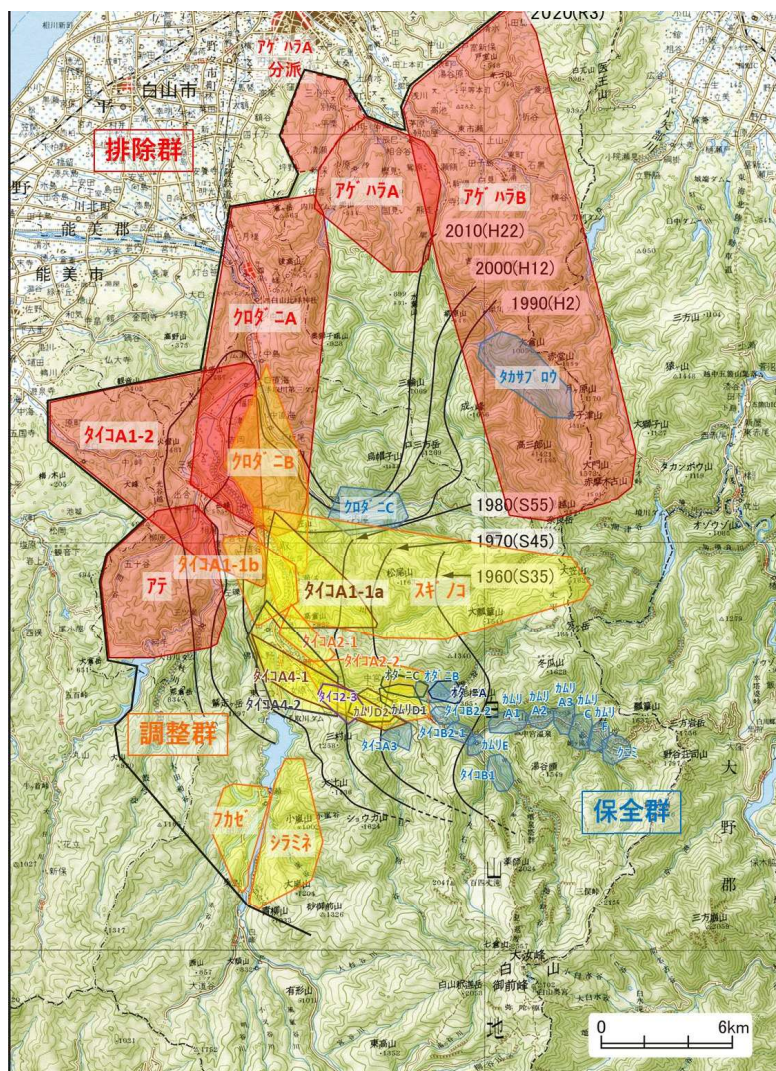
本来の生息地である山間部  
に生息する群れ  
⇒ 捕獲しない

### 調整群

里山内の集落に出没し、  
被害を与える群れ  
⇒ 部分捕獲又は  
群れの捕獲

### 排除群

人間活動が活発な地域に  
出没する群れ  
⇒ 群れの捕獲





## ⑤ 狩猟者の確保・育成

県内の狩猟者数は、昭和45年度の延べ3,550人をピークに、年々減少し、平成18年度には過去最低となる延べ913人となったものの、ここ数年は増加傾向にあり、令和6年度時点で延べ2,629人となった。

＜過去10年の県内狩猟免許保持者数(延べ人数)＞

(単位:件)

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
件数	2,130	2,493	2,703	2,814	2,929	2,980	2,897	2,845	2,780	2,629

### ◆ 課題

市町での有害鳥獣捕獲の担い手である狩猟者の確保と育成に取り組み、市町の捕獲体制の強化を図る必要がある。

→＜有害鳥獣捕獲＞

農林業や生態系等に係る被害防止の目的で行う鳥獣の捕獲

有害鳥獣捕獲の実施主体は市町

### 【主な取り組み】

#### ◇ 狩猟者確保

- ・ 狩猟セミナー（狩猟の魅力を発見するセミナー）
- ・ 市町が開催する捕獲補助者養成講習会への講師派遣を支援

#### ◇ 狩猟者育成

- ・ 経験や技術レベルに応じた捕獲技術習得研修  
初心者・フォローアップ（捕獲隊員で経験の浅い者）
- ・ 射撃訓練研修（散弾銃・ライフル銃）



## 令和8年度狩猟免許試験

第1回

令和8年6月20日(土)

石川県地場産業振興センター

申込期間: 5/15~6/5

第2回

令和8年8月8日(土)

七尾市矢田郷地区コミュニティセンター

申込期間: 7/3~7/24

第3回

令和8年9月10日(木)

石川県庁

申込期間: 8/7~8/28

第4回

令和9年2月28日(日)

能美市辰口福社会館

申込期間: 1/22~2/12

## 5 自然体験型環境教育

### いしかわ自然学校(平成13年度~)

県をはじめとした行政、民間団体、民間事業者などが広くネットワークを組んで、「いしかわ自然学校」を開校し、本県の多様な自然を活かした体験プログラムを提供

令和6年度

- ・700以上の多彩なプログラム
- ・年間2.5万人を超える参加者数



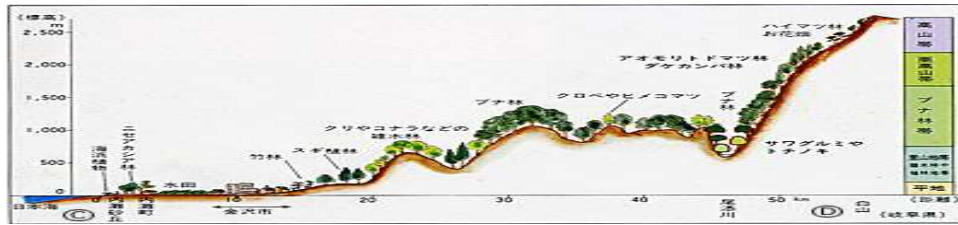
「里山あそび塾」ザリガニ釣り

ここから.....ここまで



キャッチコピーは

「白山のてっぺんから、森も、里山も、川も、日本海の中まで」



石川の自然を生かした自然体験プログラム 年間800を超えるプログラム



# 石川の自然に対して熱意を持つ指導者

200名以上の登録



## いしかわ自然学校 事務局

〒920-8203 金沢市鞍月 2丁目1番地 いしかわエコハウス内  
公益社団法人いしかわ環境パートナーシップ県民会議

- 開館時間 午前9時～午後7時（ただし、日曜日は午後5時まで）
- 休館日 毎週月曜日、祝日、年末年始

☎:076-266-0881 FAX:076-266-0882

✉ shizen@eco-partner.net

いしかわ自然学校公式HP  
<https://ishikawashizen.jp/>

Facebook ページ  
<https://www.facebook.com/ishikawashizengakkou>



# 白山自然保護センターの主な業務

64



## 石川県白山自然保護センター

石川県白山自然保護センターは、白山の豊かな自然の保全と適正な利用を図るため、1973年に設立されました。

保護管理、普及啓発、調査研究を3本柱にして、それぞれ連携しながら仕事を進めています。



# 白山自然保護センターの役割



保護管理

調査研究

普及啓発

白山の保全と適正な利用

# 白山自然保護センターの役割

保護管理

白山国立公園、白山一里野及び  
獅子吼・手取県立自然公園の

- ①自然公園の計画・管理
- ②自然公園利用者の指導
- ③自然公園法や条例の許認可業務

などを実施しています。



# 登山道の荒廃



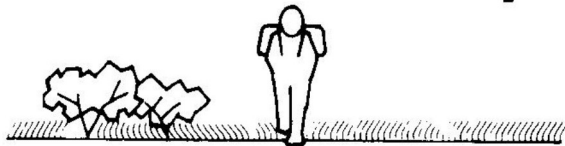
1978



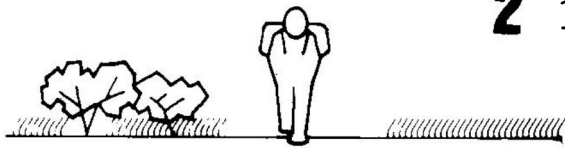
1986

## 1 登山道荒廃の過程

(徳山・染澤, 1983)



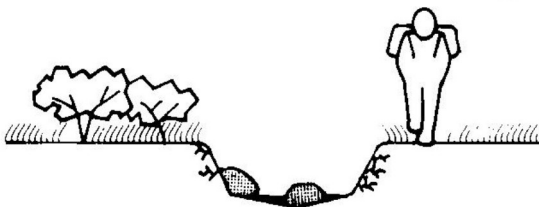
## 2 登山者の歩行で草地の消失



## 3 土壌の浸食の進行



## 4 岩の露出等で歩行困難に 荒廃した登山道の脇を 登山者が歩くことで 登山道が拡幅される



## 登山道の整備



登山道整備工事前

- 土砂流出の防止
- 登山道の洗掘の防止
- 登山道の明確化



登山道整備工事後

## 高山植物の保全

- 国立公園として指定、様々な行為を制限
- 登山道の整備（登山者の踏み荒らしを防ぐ）
- 土砂の流出防止、植生復元工事  
（土留め工、播種、移植等）



# 白山自然保護センターの役割

## 調査研究



白山地域の自然環境の保護と適正な利用を図るため、動物、植物、地質、人文などについて基礎的、応用的な研究を行っています。

同時に調査等を通して集められた資料、標本類の整理、管理も行っています。

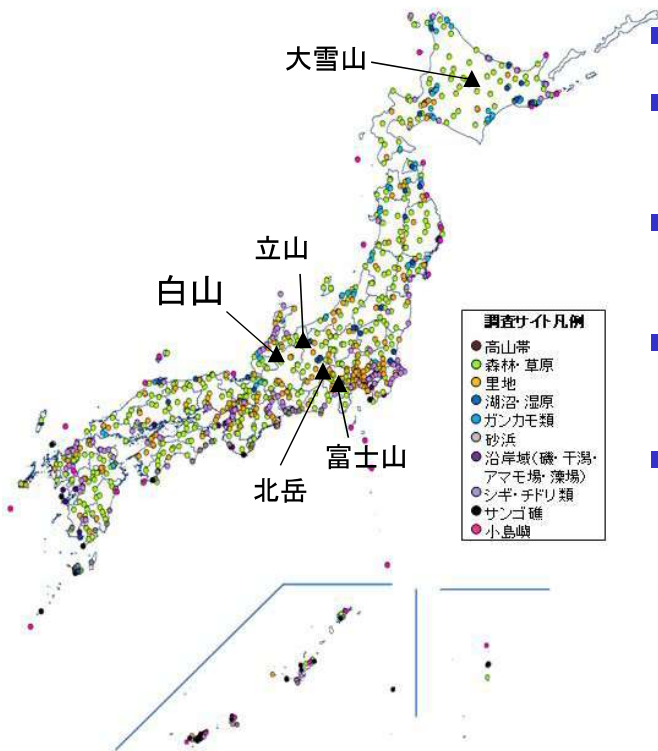
研究成果は「石川県白山自然保護センター研究報告」などにまとめ、公表しています。

## 他の研究機関や研究者との調査の連携

- 植物、動物、地質の調査担当者が白山をフィールドに各種調査を実施
- 調査内容によっては、県内外の大学や研究機関と連携しながら調査を実施
- センターで調査ができないような研究内容については、白山をフィールドに調査研究を実施している研究者からなる「白山自然保護調査研究会」に調査を委託して実施

# モニタリングサイト1000事業

(重要生態系監視地域モニタリング推進事業)



- 2003年～
- 日本の代表的な生態系の状態を長期的かつ定量的にモニタリング
- 種の減少、種組成の変化を早急に検出
- 森林、草原、干潟、サンゴ礁など現在のサイトは1,030か所
- 高山帯の調査
  - 2010年から本格調査
  - 白山、富士山、大雪山、北岳、立山

## モニタリングサイト1000 (高山帯) の調査内容

- 気温
- 植生調査地の地温及び地表面温度
- 植生
- ハイマツ節間成長量
- 開花フェノロジー
- チョウ類
- 地表性昆虫

# モニタリングサイト1000高山帯調査 (気温、植生調査地の地温及び地表面温度調査)



気温の測定



地表面温度の測定

# モニタリングサイト1000高山帯調査 (植生調査及びハイマツ節間成長量)



植生調査



ハイマツ節間成長量

# モニタリングサイト1000高山帯調査 (開花フェノロジー調査)



インターバルカメラの設置

インターバルカメラ 撮影  
2009.8.2 16:00



# 白山自然保護センターの役割

## 普及啓発



白山の豊かな自然と生活文化、自然保護に対する理解を深めてもらうため、体験教室や講演会を開催するとともに、普及誌「はくさん」などの出版物を発行しています。

また、中宮展示館、市ノ瀬ビジターセンターなどの施設では、展示や映像を通じて、理解を深めてもらっているほか、自然情報や登山道情報の提供も行っています。

# 白山自然保護センターのイベント

いしかわ自然学校の実施するプログラム 山のまなび舎

白山自然保護センターが実施する白山まるごと体験教室（夜の生き物観察、森の散策、かんじきハイキングなど）



## 白山まるごと体験教室

石川県を代表する山「白山」。白山には今も原生の豊かな自然が広がっています。白山自然保護センターでは、白山の自然や生活文化に触れ、感じてもらうため、いしかわ自然学校（山のまなび舎）行事の一環として「白山まるごと体験教室」を開催しています。

# 白山自然保護センターの出版物

- 普及誌「はくさん」（年4回発行）

白山の豊かな自然や山麓での人々の暮らしなどを分かりやすく紹介

- 白山の自然誌（年4回発行）

白山の地形や地質、動植物、人文について、毎回テーマを決め詳しく解説した冊子

